

佐瀬与次右衛門は、寛永七年（一六三〇年）今の会津若松市神指町幕内に生まれました。今から三五〇年前、日本の鎖国がはじまったころです。

佐瀬家は、代々、村のかしらとして、肝煎をつとめる家がらでした。小さいころ、吉十郎とよばれていた与次右衛門は、家で読み書きをきびしくしつけられて育ちました。家の近くの新城寺によく出かけて、和尚さんに、教えをうけることも、たびたびありました。

「うむ、なかなかみごとじゃ。」

